

女性活躍に積極的に取り組む岩手江刺農業協同組合

古江 晋也

要旨

岩手県奥州市江刺に本店を置く岩手江刺農業協同組合は2018年1月、厚生労働省から「えるぼし」(最高ランクの三段階目)の認定を受けた。同農協がえるぼしに認定された要因は、女性活躍を意識してきたというよりも、「これまで女性の新卒者の応募が多かった」ことが背景にあるが、①女性職員を積極的に管理職に登用する、②総代の1割を女性とする、③役員に女性枠を設ける、などの取組みを着実に実施してきたことは注目される。

はじめに

岩手県奥州市江刺に本店を置く岩手江刺農業協同組合(2017年4月・出資金23億円、総資産・510億円、2支店・2営農支援センター)は2018年1月、厚生労働省から「えるぼし」認定を受けた。ここでいうえるぼしとは、16年4月に施行された「女性の職業生活における活躍の推進に関する法律」(女性活躍推進法)に基づいた認定制度であり、女性活躍に関する取組みの実施状況などが一定基準を満たすと、企業等が都道府県労働局へ申請することにより、厚生労働大臣から認定を受けることができる。

えるぼしは、5つの基準(①採用、②継続就業、③労働時間等の働き方、④管理職比率、⑤多様なキャリアコース)のうち、どれだけ満たしているか、によって3段階に分けられるが、岩手江刺農協は最高ランクの3段階目の認定を受けた。これは東北地方の農協では初めてであり、全国の農協でも周南農協(山口県)に次いで2例目である。

店舗集約と渉外活動

岩手江刺農協の管内である江刺は、ブ

ランド米「江刺金札米」や高級ブランドりんご「江刺りんご」を生産する地域であり、職員3人に2人は、営農事業に所属している。同農協で働く職員は290人。うち男性が138人、女性が152人と女性が多い職場である(岩手労働局ウェブサ

岩手江刺農業協同組合本店



本店内の様子



イト)。

女性職員が多い理由は、同農協が女性活躍を意識して採用したというより、採用試験を受ける学生等に女性が多かったことと、地域的な特性があると考えられる。江刺は、農業が盛んな地域であり、製造業やサービス業などの職場が少なく、営業職といった職種も少ない土地柄である。そのため、従来から地元で就職を希望する多くの女子生徒や学生は、同農協の採用試験を受けてきたという。

岩手江刺農協は、82年に7つの農協が合併して設立された経緯もあり、06年までは10の金融業務に特化した店舗(支所)が配置されていた。しかし、業務の効率化などの観点から2店舗に集約する一方、組合員とのフェイス・トゥ・フェイスを維持するため、渉外業務を活発に展開するという営業体制の見直しを図った。

10店舗体制であった当時は、少数の人員で店舗運営を実施していたため、担当者が休暇を取得することに気兼ねがあったという。しかし、店舗が集約されるようになると、先輩職員が後輩職員に業務のノウハウを伝えることで効率が上がったり、同僚職員同士が業務をカバーしあうことで、余裕が生まれることになった。そして、この積み重ねが非正規職員を含む出産者全員が育休を取得し、復職を果たす組織風土にもつながった。

15年3月には、8ヶ所の営農センターを2ヶ所に集約するとともに、営農事業も「出向く活動」を強化することで、組合員に寄り添う姿勢を示している。またこれらの渉外活動に加え、月一回、職員が組合広報誌を持って組合員のもとを全戸訪問する取組みは注目される。

役員に「女性枠」を設ける

岩手江刺農協では、06年度から男性が大半を占めていた総代で1割を女性とする「女性枠」を設定したり、10年度からは、女性参与制を導入するなど女性の意見を組合運営に積極的に取り入れる改革に乗り出した。そして13年7月には、女性理事が初めて誕生した。現在、同農協の役員は17人いるが、そのうち2人は女性理事である。

女性が理事に就任することで大きく変化したことの一つは、女性部の活動である。これまで女性部の活動の中心は、共同購入などであったが、女性理事の就任以降は、女性組合員にも参加を積極的に呼びかけるとともに、総務部に「組合員くらしの活動課」が設置されることになった。

組合員くらしの活動課は、女性部の事務局という役割を担っており、これまで信用事業、共済事業、営農事業など、それぞれ個別で行われていたイベント情報などを同課が集約し、多くの組合員に情報を発信できるようにした。

このような情報集約・発信を行っているからこそ、例えば、共済事業で行われている出産や育児を応援する活動である「こども倶楽部」に所属する組合員と、女性部に所属する組合員が交流を深め、出産や育児に関するアドバイスを聞くことができる機会が増えたという。さらに女性部では、地域の高齢者を支える活動を実施しているが、このことも、事業を跨ぐことで、より深みのある取組みへと変化するようになった。

また同農協では、これまで女性部の担当職員には、女性を配置していたが、女性理事の誕生以降は、男性も女性部担当

左から及川敬幸課長、佐藤勝之常務理事



職員にするなど、まさにジェンダーにこだわらない人員配置を実施したことも注目される。

高い女性管理職割合

女性理事が就任したことは、女性管理職を登用する追い風にもなった。図表1は、厚生労働省「平成28年度雇用機会均等基本調査（確報）」における、産業別女性管理職の割合をまとめたものである。

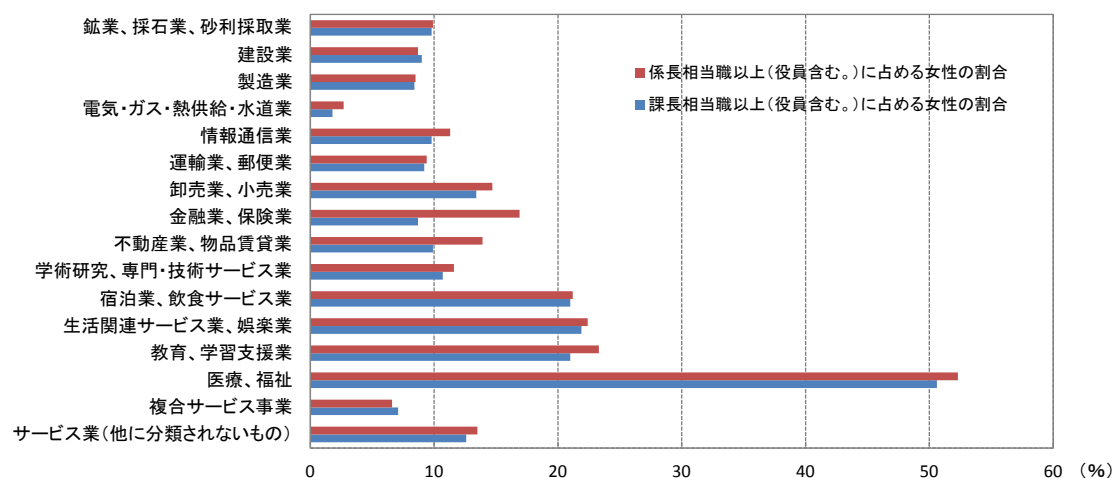
この調査によると、女性管理職の割合は、「医療、福祉」が係長相当職以上、課長相当職以上がともに50%超であるのに

対し、「電気・ガス・熱供給・水道業」は係長相当職以上が2.7%、課長相当職以上が1.8%と、業種によって大きな偏りがあることが分かる。なお、農協は複合サービス事業に分類されており、係長相当職以上は6.6%、課長相当職以上7.1%となっている。しかし、岩手江刺農協における管理者に占める女性労働者の割合は、ここ3～4年で高まったこともあり、現在は23.3%と平均を大幅に上回っている。

ただ、多くの金融機関と同じように岩手江刺農協も90年代後半の金融危機の時期に新卒採用を削減したため、40代の管理職が相対的に少ないという状況となっている。そこで18年4月からは「課長補佐」という役職を新設。30代半ばの職員を管理職へと登用することで、ジェネレーションギャップを緩和し、若手職員との円滑なコミュニケーションを図ることにしている。

筆者が訪問した時は、まだ課長補佐が新設されて3週間ほどしか経過していなかったものの、「職員が管理職に話しかけ

図表1 産業別女性管理職割合



(資料)厚生労働省「平成28年度雇用機会均等基本調査(確報)」

やすくなった」という声が職員間で増えるなど評判は上々であるという。なお、今回は 18 人が課長補佐に任命されたが、うち 7 人が女性職員である。

営農指導員に女性職員を配置

これまで営農事業は、事務部門を除くと男性職員が中心であった。その理由は重量のある機材や農産物を運搬するなどの力仕事が少ないということと、「営農指導は男性職員がする」というイメージが強かったことにある。しかしこのような慣行も徐々に崩れつつある。

岩手江刺農協では現在、園芸分野で 1 人、畜産分野で 1 人の計 2 人の女性営農指導員が活躍している。特に畜産分野については、17 年度に初めて女性職員を新卒で採用。酪農関係の学部出身で専門的な知識を有すること、意欲が高いことと、何ごとにも頑張る姿勢が多く組合員の信頼を得ることになったという。

一方、営農事業担当者の労働時間は、農繁期と農閑期によって差が激しく、農繁期には、残業が多くなることが避けられなかった。そしてこのことが、男性職員が中心となる要因のひとつでもあった。しかし同農協では今後は、時差出勤を取り入れることを計画するなど、誰もが対応できる環境づくりを目指している。

「えるぼし」を取得して

以上、岩手江刺農協の女性活躍の取り組みを概観した。同組合がえるぼしを申請することになった直接的な理由は、労働局による定期監督の際、女性管理職の割合が高いことを踏まえ、「えるぼし認定を受けてはどうですか」とアドバイスを受けたからであるという。

同農協が女性活躍に取り組むようになったのは、女性理事を迎え入れたことが追い風になった側面もあるが、「地元で長く働きたい」という思いから女性の応募が多かったことによる。

しかし、えるぼし認定を受けたことで総務部総務課長の及川敬幸氏は、農協内外の効果に注目する。まず農協内については、育休をはじめとしたさまざまな休暇を取得することで、「職員に家庭と仕事を両立してほしい」「長く勤務してほしい」ということを伝えることができることである。そして農協外については、女性活躍を応援しているということを地域社会に認知してもらえることで、優秀な学生等が応募してくれるという期待である。

性別に関係なく、継続して働きやすい環境を構築していくことと、業務の効率化や生産性の向上は、どの企業や組合も喫緊の経営課題となっている。しかし、数値を目標にした業務の効率化や生産性の向上は、組織のアイデンティティを崩しかねない危険性をはらんでいる。そうした中、常務理事の佐藤勝之氏は、「協同組合らしい働き方改革の追求が今後の課題」と指摘する。

マイナス金利政策や人口減少といったさまざまな逆風が地域金融機関に吹き荒れる中、固定観念に縛られたアプローチのみでは、ブレイクスルーを見つけ出すことは徐々に難しくなりつつある。そうした中、経営に女性の意見を積極的に取り込んだり、女性管理職を積極的に登用してきた岩手江刺農協の取り組みは、大きな示唆を与えてくれる。